

ドキュメンタリー映画・90分＋水俣の皆さんによるスピーチ・30分



水俣市教育委員会後援 文科省選定映画

水俣 わが故郷

～ほっとはうす流もやい直し～

2月4日(土)

午後1時30分開場、午後2時開会

プラザウエスト
さくらホール(桜区役所)

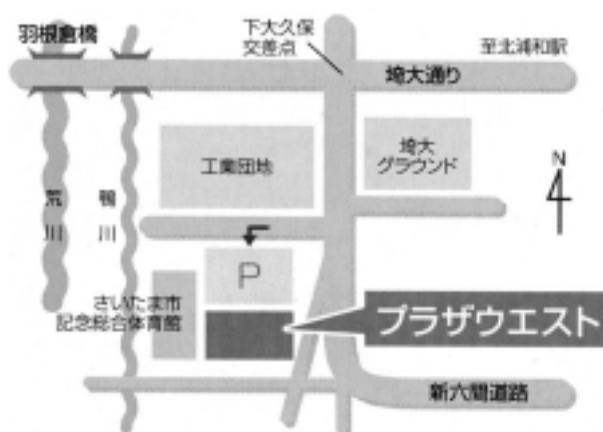
チケット(前売り・全席自由)

大人 999円

大学生以下 500円

(当日300円増)

監督 西山 正啓
音楽 ウオン・ウインツァン
主題歌 「海」水俣袋小学校
撮影協力 社会福祉法人さかえの社・ほっとはうす
水俣袋小学校
深川小学校
水俣第二小学校



■主催 映画「水俣・わが故郷」上映実行委員会

公式ホームページ <http://minamatamovie.hp.infoseek.co.jp/>

E-mail minamatamovie@infoseek.jp

埼玉大学教育学部 安藤 聡彦研究室 TEL048-858-3150

■後援

さいたま市・さいたま市教育委員会・テレビ埼玉・FM NACK5・読売新聞さいたま支局
朝日新聞さいたま総局・毎日新聞さいたま支局・東京新聞さいたま支局・埼玉新聞

■制作・配給

遊花ゆい工房

ドキュメンタリー映画・90分

水俣 わが故郷 ～ほっとはうす流もやい直し～

監督 西山 正啓 音楽 ウオン・ウインツァン

主題歌「海」水俣袋小学校

撮影協力 社会福祉法人さかえの社・ほっとはうす 水俣袋小学校 深川小学校 水俣第二小学校

解 説

水俣病が多発した地区の小学校で、水俣病患者への根深い偏見・差別を克服するために1998年から始められた胎児性水俣病患者との交流授業が、いま静かな広がりを見せている。

出前授業を行っているのは水俣市の小規模通所授産施設「ほっとはうす」。「ほっとはうす」は町の中で喫茶店を運営する小さな作業所である。メンバーは11人。出発は胎児性水俣病患者が働く場づくりだったが、いまではダウン症の女性も通ってくる作業所である。「ほっとはうす」は喫茶店を運営し、押し花付き名刺・菜、ラベンダーポプリなどを制作する一方、胎児性患者の「水俣病体験」を多くの人に



伝えていく交流事業を活発に行っている。

水俣病はチッソ水俣工場から排出されたメチル水銀がプランクトン、魚、人間へと食物連鎖によって起きた世界で初めての有機水銀中毒であり、生態系汚染である。水俣病は海を汚し生類を苦しめただけではなく、1500人を越える人間を死に追いやり、不知火海沿岸に暮らす人々のおだやかな人間関係を一夜にして壊してしまった。来年、2006年は水俣病の公式確認から50年目をむかえる。胎児性患者も50歳をむかえる人がいる。今日まで半世紀もの間、解決を怠り、救済を放置してきた国の責任は極めて重い。

水俣病で失った人間関係を回復する「もやい直し」という活動が地域、学校、職場のあらゆる場で取り組まれている。水俣病に対する根深い偏見・差別が長い間患者を苦しめ、差別した側の市民も結果的に“水俣出身”と言うだけで差別され苦しんできた。「もやい直し」は心身共に苦しみてきた水俣病患者の人間としての尊厳を取り戻し、市民が誇りにできる地域（故郷）の再生事業である。いま、水俣の小学生は毎年、胎児性患者と交流しながら成長してゆく。「ほっとはうす流交流授業」は学校教育のあるべき方向を示唆してくれるはずだ。

試写会を見て...学生の感想

小学生が真正面から水俣病患者さんを理解しよう、受け止めようとしている様子がにじみ出ていて、特に歌の「海はきれいだ、とてもきれいだ」にジーンときてしまいました。かえって教科書でハンパな知識を教えるより、ふれあいの中で学ぶことの重要さがここに顕著に現れているのではないのでしょうか。水俣について知りたがっている人にはもちろん、そうでない人も十分に見てもらふ価値がありますし、見る必要がある映画だと思います。

映画は今までの水俣の映画が「リアルに足跡を見る」ような感じだったのに対して本当に“今”を見ている気がしてなんだかほっとしてしまいました。彼らにとって他のどこでもない<水俣>がホームなんだと伝わってきて素敵でした。きっと見に来た人それぞれに違う視点で見てもらえるし『水俣』にこだわっている人もそうでないひとも見れる映画だと思いました。

水俣病患者さんの明るさに驚きました。水俣病患者さんと子ども達の笑顔は本当に素敵でした。子ども達が水俣病患者さんのことを理解し、受け止めようと頑張っている姿に感動しました。水俣病は教科書だけで学ぶのではなく、水俣病患者と触れ合って、コミュニケーションを取りながら学ぶ事も大事だと思います。子供達の歌は非常に良かったです。心を打たれました。

一番印象に残ったのは子ども達が歌っていた歌です。今も耳に残っています。一生懸命歌っている子ども達の顔を見ていると、もう水俣病を伝える側と受けとる側の境界線は消えているように感じました。また、ほっとはうすのみなさんは明るいな、と思いました。そこがこの映画の魅力だと感じます。

